

高校が春休みに入ってから、二、三日たち、私は自宅の近くの公園に行ってみた。

桜の花もあと数日で満開になり、しばらくは、公園も花見の人たちでにぎわうであろう。子どものにぎやかな声も聞かれなくなったのは、五時を過ぎたころであった。公園は私一人だけとなり、ベンチにすわり、桜がゆったりと風に揺れるのを見つめていた。

しだいに、瞑想の境地になっていく自分を感じつつ、ふと上空に丸く光る物体が感じられた。円を描きつつ、私のほうに近づいてくると思われた。以前にもそんなことはあったが、今回は少し様子がちがっていた。私の間近に光る物体がどんどん近づいてくるのである。そうして、ベンチの前の広場に降りたのである。まさか宇宙船ではあるまいな、と思ったが、やはり宇宙船であった。宇宙船のドアから、二十四、五歳の女性が出てきて、完璧な日本語で、

「迎えにきました。はるばる金星からやってきました。これから金星にお連れします」

そう言い終わるやいなや、私は磁力に引かれているような状態になり、宇宙船の中に入っていた。

「クリスタル、と言います」

と、その女性は自己紹介をし、

「これから、金星への旅にお連れします。時間的には、それほどかかりません。地球の時間では、四、五時間で地球にもどることができます」

「そんなにはやく帰ってこれるのですか」

「そうなんです。さて、私の名前は、さきほど申しましたが、実は、あなたの名前はすでに知っています。菅原伸夫さんですね」

「そうです。でも、なぜ……」

「実は、あなたの波動を解析して知ることができなのです。この宇宙のしくみは、波動の解析によってわかるのです」

「へえ、波動の解析？」

「伸夫さんも、これから波動について学んでください。そうすることによって、地球の文明の問題点を把握できるはずですよ」

またたくまに、宇宙船は、宇宙空間を飛び抜けて、金星の上空にやってきた。宇宙船の下のほうに、宇宙船の基地があり、着陸した。

クリスタルは、基地の地下にある部屋に案内してくれた。

「あなたに会わせたい人がいます」  
と言ったとたん、六三が現われた。

六三は、以前は地球で私のソウルメイトであり、霊的なきずなによって強く結ばれていたのだ。私は再会の日を待ち望んでいた。このような形で再会が実現するとは、何とも不思議なことである。

「伸夫さん、三年ぶりですね。あなたと別れてから、ふとしたことから、クリスタルに出会い、金星に案内されるようになりました。あなたのことは、クリスタルから聞くことができました。詩人として活躍されているそうですね。あなたの詩集をクリスタルからいただき、何度も読んでみました。詩集で、あなたは、

愛は二人を導き

愛は二人を育て

愛は霊的な力を生み出す

と書いていますが、とても感動しました。何度も何度も口ずさんでいます」

「そうか、金星で私の詩集を読んでもくれたのか。クリスタルに感謝します」

「そう、クリスタルはあなたのことを何でも知っています」

「ところで、私たちの霊的な力が、お互いを結びつけているのだね」

「ええ、霊的なつながりがある限り、どんなに離れていても心が通じ合うものです。これが宇宙の法則です」

「さて、もう一人、会わせたい人がいるの」

と、クリスタルがいったとたん、知可が現われた。知可は六三と同じく、私のソウルメイトで、三年前に別れて以来、会う機会がなかった。

「伸夫さん、お別れして以来、この日がくるのを信じていました。私たちの霊的なエネルギーがひき合わせてくれたのです。二十五歳になりました。地球では、東京の多国籍企業に勤め、法人営業の仕事をしています。出張中に、新幹線の中で、クリスタルが現われ、クリスタルに導かれて金星にやってくるようになりました。名古屋に出張した帰り、東京へもどる新幹線の車内にクリスタルが現われて、友達になったの。金星では、いろいろなことを学んだわ。地球が生まれ変わる時期にきていることを理解できたわ。地球の人々が内面の変革をとげて、霊的な存在に変わっていくのです。肉体よりも霊的なことに重点を置いた存在になっていくのです。伸夫さんとは霊的に結ばれているように、すべての人々が霊的に結ばれています。私はクリスタルに導かれて、本来の役割を見出すようになりました。毎日がとても充実しています。自分自身の魂の成長を願っています。また、あなたの幸せを祈っています。私の本来の役割とは、地球の人たちが互いに分かち合うことにめざめるようにすることだと確信できました」

知可の精神的な成長に、私は感動した。私の願うような人になっていたのだ。知可も六三

もこの三年間に大きく成長した。私は、お互いの霊的な結びつきの高まりを感じていた。

地球にもどる時間がやってきた。

宇宙船の基地へ歩いていくと、

「出発の前に会わせたい子どもがいるのよ」

「子ども？」

「そう、あなたの子よ。六三が産んだのよ。女の子よ。二歳と三か月になったのよ。名前はヴィーナスです」

六三によく似た顔つきの幼児が宇宙船の前に現われた。

地球の子どもたちと同じような姿であった。私はその子を抱きしめた。その時、光の波動が降りそそぐのが見られた。七色の光であった。

「地球では、肉体の関係から子どもが生まれるけれど、金星ではそうではないのよ。二人の霊的なエネルギーが交流して、子どもが生まれるのです。伸夫と六三の霊的なきずなによって生まれたのです。人類の未来は、このようになるのです。このようにして生まれた子は、きつとすばらしい霊的な能力を発揮するでしょう。霊的な力で生まれた子どもは、約1000年の寿命があるのです」

私は何ともいえない喜びを感じていたが、さらにもう一つの喜びを知った。

「知可も三年後にあなたの子どもを生まます。二人の霊的なエネルギーが交流して、新しい生命が生まれるのです。これが宇宙の法則です」

「宇宙の法則？」

「ええ、地球の人々は宇宙の法則を、これから学んでいくのです」

私とクリスタルが宇宙船に乗り込んだ。宇宙船が離陸しだした。またたく間に地球に着いた。

クリスタルとの出会いは、思いがけない未知の世界への旅となった。金星への旅に感謝しつつ、クリスタルとの別れを惜しんだ。宇宙船は公園の広場を飛び立ち、あっという間に視界から消えていった。

「霊的なエネルギー」と口ずさむと、ヴィーナスの笑顔がよみがえった。さらに、六三と知可からの喜びの波動がやってくるのを感じた。

夜桜に見守られて、ゆったりとした足どりで自宅にむかった。人と人との出会いの不思議な力を感じつつ。

金星にむかっていたクリスタルの宇宙船に緊急連絡が入っていたのだ。

それは、六三からの連絡であった。

自宅にむかっていた私の頭上にクリスタルの宇宙船がもどってきた。私は宇宙船に連れもどされ、六三からの緊急連絡の内容について聞かされた。

「月の公転周期が今までの周期に比べて、約三分の一になったのです。そのため、地球に大きな影響があらわれるのです。地の人間への生理的な影響があらわれます。また、満潮と干潮にも大きく影響するのです。そして、今の地球の文明社会全体が大きく変わっていかざるをえないでしょう」

宇宙船が月に着いた。

私たちは、六三に迎えられた。

六三はテレポーションによって、金星から月にやってきたのだ。金星での再会で、しばらくは会えなくなると思っていたが、今度は月で会うことができた。

「月の公転周期のことで、私たちが宇宙のしくみについて考えるようになると思いますわ」

「うん、いい機会だ。人類が今の文明社会を見直すきっかけになるよ」

クリスタルが科学者会議の開催のことを知らせてくれた。

「私と六三が、宇宙の創造主に科学者会議の必要性を伝えたのです。そしたら、宇宙の創造主からも三人の代表が派遣されることになったのです。まもなくその三人が月に到着しますので、紹介しますわ」

三人の乗った宇宙船が、月の宇宙船の基地に着いた。

私とクリスタルと六三の三人でその三人を迎えた。

三人の名前は、アルファとベータとガンマであった。

アルファが自己紹介をした。

「私は宇宙の創造主からこの月に派遣されました。アルファと申します。私は地球の文学を専門に研究している宇宙の創造主の指導のもとにいる研究者です。地球の文学が二十世紀の文学から二十一世紀の文学の段階に入って、どのような役割を果たしているのか、また、どのような役割を果たすべきかについて研究してまいりました。伸夫さんが、二十一世紀の文学の役割について研究されているのを知り、以前からお会いしたいと願っておりましたが、今日ここでお会いできうれしく思っています。では、ベータに自己紹介してもらいます」

ベータは、地球やその他の惑星の地質について研究している科学者である。

「ベータと申します。六三さんからの緊急連絡を受けて、はるばる月までやってきました。月の公転周期が変わることは、地球だけでなく、銀河系全体にも影響を及ぼします。地殻の構造も変化し、地球の内部の構造が大きく変動することになります。科学者会議において討議することになっていますので、その結果については、後ほど報告します。では、ガンマに自己紹介してもらいます」

ガンマは、宇宙の創造主のもとで指導をうけている哲学者である。

地球の哲学者とはちがっている点は、善と悪とか正と不正とかの二元性というところをえ方を

しないということである。

「ガンマと申します。私も六三さんからの緊急連絡を知り、月に派遣されました。私は哲学者です。私たちの哲学と地球の哲学とは大きく異なる点がありますが、伸夫さんは、私たちの哲学を十分に理解しており、私たちの哲学と地球の哲学とを結びつける役割をしてくださる方であることがわかっています。また、科学者会議においては、何人かの地球の科学者も参加し、私たちの科学と地球の科学を結びつけることを目ざしていきたくて考えています。さて、私は創造主からのメッセージをあずかってまいりましたので、今から読ませていただきます」

創造主からのメッセージは次の内容であった。

人類が今ある文明をのりこえていくためには、善と悪などの二元性をのりこえていかなければなりません。また、今ある科学技術をさらに発展させていかなければなりません。この時になって、月がその出発点となりました。月の変化が地球の文明の再創造のためのチャンスになります。だから、この科学者会議において、地球の文明社会が何をめざすべきかを明確にしてほしいと願っております。また、善と悪などの二元性の克服においては、伸夫さんとガンマの二人による共同研究が貴重な役割を果たすことになるでしょう。では、いつかお会いできる日を楽しみにしています。

「では、会議室へまいりましょう」と六三がいった。

「六三さん、この緊急連絡はどのようにして……」

「それは、ヴィーナスが知らせてくれたのです。ヴィーナスがテレパシーで、月の公転周期の変化について知らせたのです」

「ヴィーナスだったのか。やはり霊的な能力がすばらしいのだね」

会場はシャトルバスに乗って行くことになっていた。バスで二分ほどであった。宇宙船の基地の周囲は丘陵地帯であり、丘を越えていくと会議センターの建物がそびえていた。

会議が始まった。

クリスタルがあいさつした。

「みなさん、お集まりいただきありがとうございます。今回の件では、六三さんに尽力をいただきました。六三さんを御紹介します」

六三があいさつをした。

「六三と申します。どのようにして月の変化を知ったのかは、私の娘のヴィーナスがテレパシーで知らせてくれたからです。不思議なことがあるのですね」

次に、私がいさつをする事になった。

「菅原伸夫と申します。今回のことは、地球と金星、さらに銀河系をお互いに結びつけることを十分に認識させてくれました。地球の環境問題だけでなく、銀河系をはじめさらに全宇宙を視野においたとらえ方が不可欠です。ところで、今回の月の件について、具体的な対策を考えていきましょう」

二、三分の沈黙が続いた。

六三が話し出した。

「知可の霊的なパワーを使うんですよ。知可なら、日本の出身地の山や川だけでなく、月をも動かすことができるはずよ」

科学者会議に集まった一同も、不思議に、この案に納得しだした。

六三が知可を会議場に呼び出した。テレポーションで知可が現われたのだ。

知可は、私の隣の席にこしかけて、内奥に存在する霊的なパワーを発生させた。知可のチカラから月に対してエネルギーが注がれた。月と知可が霊的に交流しだした。月の動きに変化が現われた。つきはゆるやかにその公転周期をやめていった。数分でもとの公転周期にもどったのだ。

「知可のパワーは無限大なのね」

と、クリスタルがいった。

知可は疲労のため、ぐったりとしていた。

知可の霊的パワーを調整するためには、宇宙の創造主の力を必要とした。そのために、クリスタルが創造主にテレパシーを送り、知可を創造主のもとに派遣することを決めた。

知可を乗せた宇宙船には、私とクリスタル、それに六三も乗り込んだ。

またたく間に、創造主のもとに着いた。創造主は、十二色の光に包まれていた。日本の古都で見た仏像の輝きのような姿をしていた。金星に滞在していた時とも異なる感じのする世界だ。今までに経験したことのない世界であった。

創造主は、知可に愛の光を注いだ。そのとたん、知可は光り輝き、なごやかな顔つきになり、

「私は創造主に守られ、導かれているのです。私の霊的パワーというよりも、創造主の力によって、月がもとの公転周期にもどったのですわ」と、いった。

「知可さんが月を動かすことができたのは、知可さんが、この宇宙の創造の法則を信じ、この宇宙を愛で包んでいるからですよ」  
と、創造主はつけ加えた。

創造主との別れの時がやってきた。

創造主からのメッセージを聞くことができた。

伸夫さんと六三さん、知可さん、それにクリスタルさん、私はこの日を待ち望んでいました。私はこの宇宙を愛で包み、地球はもちろん、宇宙全体の平和を導こうとしています。あなたがたのような人たちがこの宇宙にいることは、必ず私の理想とする宇宙がつくられることを確信できます。金星や地球に帰って、多くの人々に宇宙の法則を広めてください。私は、はるかかなたから、あなたたちに愛の光を注いでいます。伸夫さんと六三さん、知可さんの再会のことも私は知っていました。なぜなら、三人は、宇宙の法則にもとづいたライフスタイルを確立しているから、宇宙の意思がはたらいて、自然とそうになるのです。クリスタルはあなたがた三人の波動を感知して、金星での再会を準備したのです。では、今日はいえぬお別れにしましょう。

私は、公園でのクリスタルとの出会い、そして、金星での六三と知可との再会、さらには、創造主との出会いという一連の流れの中に、宇宙の意思ということの意味深さを感じざるをえなかった。

地球の文明社会だけに執着していたら、このような広く大きな世界を見出すことができなかったであろう。

私は今こそ飛び立つのだ、本来の創造の世界へと。